23　　かぐや姫のめ 　　　　文法　助動詞⑧　じ・まじ

読解　発言の意図をつかむ

新傾向　同じ題材の文章との表現の違いをつかむ

秋になって、月の都の人がかぐや姫を迎えに来ることになったが、それに対して、が大声で怒っている。

かぐや姫のいはく、「に①なのたまひそ。の上にをる人どもの聞くに、いとまさなし。いますかりつる心ざしどもを、思ひも知らで、まかりなむずることのしうはべりけり。長き契りのなかりければ、ほどなくまかりぬべきなめりと思ひ、悲しくはべるなり。親たちのかへりみを、いささかだにうまつらでまからむ道もやすくもあるⓐまじきに、日ごろも、いでゐて、今年ばかりのを申しつれど、さらにゆるされぬによりてなむ、②かく思ひ嘆きはべる。御心をのみはして去りなむことの悲しく堪へがたくはべるなり。かの都の人は、いと㋐けうらに、老いをせずなむ。思ふこともなくはべるなり。さる所へまからむずるも、③いみじくはべらず。老いおとろへたまへるさまを見たてまつらざらむこそ恋しからめ」といへば、翁、「胸いたきこと、なのたまひそ。㋑うるはしき姿したる使ひにも、障らⓑじ」と、ねたみをり。

語注

さる所＝月の都のこと。

【原文】

　かぐや姫のいはく、「声高になのたまひそ。屋の上にをる人どもの聞くに、いとまさなし。いますかりつる心ざしどもを、思ひも知らで、まかりなむずることの口惜しうはべりけり。長き契りのなかりければ、ほどなくまかりぬべきなめりと思ひ、悲しくはべるなり。親たちのかへりみを、いささかだに仕うまつらでまからむ道もやすくもあるまじきに、日ごろも、いでゐて、今年ばかりの暇を申しつれど、さらにゆるされぬによりてなむ、かく思ひ嘆きはべる。御心をのみ惑はして去りなむことの悲しく堪へがたくはべるなり。かの都の人は、いとけうらに、老いをせずなむ。思ふこともなくはべるなり。さる所へまからむずるも、いみじくはべらず。老いおとろへたまへるさまを見たてまつらざらむこそ恋しからめ」といへば、翁、「胸いたきこと、なのたまひそ。うるはしき姿したる使ひにも、障らじ」と、ねたみをり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

かぐや姫は、翁に、「今年だけの［　　　］を願うが、許されなかった。親たちの行く末を見届けないことを［　　　　］く思われる」と言った。翁は、それを聞いて、「［　　　］の痛むことを言うな。使いに姫を渡すことはない」と怒った。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（終止形でよい）。〈3点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕

㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ・ⓑの助動詞の文法的意味と活用形を答えよ。〈3点×2〉

ⓐ　〔　　　　　　　　〕〔　　　　形〕

ⓑ　〔　　　　　　　　〕〔　　　　形〕

問四　［チェック問題］助動詞⑧　じ・まじ

(1)　次の活用表を完成させよ。〈1点×2〉

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| まじ | | じ |  |
|  |  |  | 未然形 |
|  |  |  | 連用形 |
|  |  |  | 終止形 |
|  |  |  | 連体形 |
|  |  |  | 已然形 |
|  |  |  | 命令形 |
|  | |  | 接続 |

(2)　次の傍線部の助動詞について、文法的意味を答えよ。〈2点×3〉

1　そのこと待たむ、ほどあらじ。（徒然草）

2　なほ仕うまつるまじきことを参りて申さむ。（竹取物語）

3　たやすく人寄り来まじき家をつくりて、…（竹取物語）

1〔　　　　　　　　　　〕

2〔　　　　　　　　　　〕

3〔　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部①を現代語訳せよ。〈6点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②とあるが、なぜそのように言うのか。次の［　　］に合う言葉を、1は十五字以内、2は十字以内で答えよ。〈5点×2〉

少しでも長くとどまり、［　1　］のに、月の都の人がそれを［　2　］から。

1〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

2〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　傍線部③とは、どういうことか。最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　親たちの心を惑わしたまま月の都に帰ることが、何にもましてつらいことだということ。

イ　いつまでも老いず、思い悩むこともない月の都に帰ることがすばらしいことではないということ。

ウ　月の都に帰り、ずっと美しい衣装を着続けることを、必ずし　もありがたいと思わないということ。

エ　親たちが年老いてゆくのを見届けず、美しい月の都に帰ることができてこの上なくうれしいということ。

〔　　　〕

問八　次の【資料】は、小説家の星新一が『竹取物語』を題材として新しく文章にしたもののうち、本文の２～６行目にあたる箇所である。これを読み、表現の特徴について説明したものとして適当でないものを一つ選べ。〈6点〉

【資料】

　姫は思い出をふりかえる。

「……わたくしとしても、これまでのご恩のありがたさに、ゆっくりお礼も申し上げるひまもない。このまま行かなくてはならないのは、心残りでなりません。長くいてもいいきまりだったら、どんなにうれしいことでしょう。①それが、そうでないのですから、残念でなりません……」

　ため息をつき、つづける。

「……育てていただいたのに、なにもむくいてさしあげることができない。むこうの国へ行くのも、そのことを気にし、苦しい気持ちでの旅になりましょう。春ごろから、月の出る夜はそれにむかい、わたくしの願いを伝えようとしました。②帰るのを一年、せめて半年でも、あとにしていただきたいと……」

　おわびの言葉でもあった。

「……それは許されませんでした。そのため、③なげいた姿をお見せしてしまいました。ここへきて、大変なご心配をかけ、たくさんのお手数もおかけしました。もう、胸のつまる思いです……」

　④どうにもならない運命なのだ。

（星新一訳『竹取物語』（角川文庫刊）より部分掲載）

ア　本文２行目「思ひも知らで、まかりなむずることの口惜しうはべりけり」という表現が、【資料】の傍線部①「それが、そうでないのですから、残念でなりません」と表現されることで、かぐや姫の月の人に対する恨みがより際立つものとなっている。

イ　本文５行目「今年ばかりの暇申しつれど」という表現が、【資料】の傍線部②「帰るのを一年、せめて半年でも、あとにしていただきたい」と譲歩を含んだ表現になることで、かぐや姫の翁たちへの想いをより切実に伝えるものとなっている。

ウ　【資料】の傍線部③「なげいた姿をお見せしてしまいました」という表現によって、かぐや姫が翁たちを気遣う様子がより伝わるが、このように、本文にはない表現が随所に挿入されており、作品の味わいを深めている。

エ　本文ではかぐや姫のせりふは一続きであるが、【資料】の傍線部④「どうにもならない運命なのだ」のように、翁とかぐや姫の想いに寄り添う語り手の立場に立った表現があることで、二人の悲しさがより強調されている。

〔　　　〕

【解答】

問一　暇／恋し／胸

問二　㋐＝清らかで美しい　㋑＝端正である〈3点×2〉

問三　ⓐ＝打消推量・連体形　ⓑ＝打消推量・終止形〈3点×2〉

問四　(1)　〈1点×2〉

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| まじ | | じ |  |
| まじから | (まじく) | 〇 | 未然形 |
| まじかり | まじく | 〇 | 連用形 |
| 〇 | まじ | じ | 終止形 |
| まじかる | まじき | じ | 連体形 |
| 〇 | まじけれ | じ | 已然形 |
| 〇 | 〇 | 〇 | 命令形 |
| 終止形  (ラ変型には連体形) | | 未然形 | 接続 |

(2)　1＝打消推量　2＝打消意志　3＝不可能〈2点×3〉

問五　おっしゃるな。〈6点〉

問六　1＝親のもとにいてお世話をしたい（14字）〈5点×2〉

　　　2＝全く許してくれない（9字）

問七　イ〈8点〉

問八　ア〈6点〉

【現代語訳】

かぐや姫が言うことには、「声高におっしゃいますな。建物の上にいる人々が聞くと、たいそうみっともないことだ。（私に対して）おありになった（あなた方のこれまでの）ご愛情などを、わきまえもしないで、出て行ってしまうようなことが残念でございますことよ。前世からの宿縁がなかったので、まもなく出て行かなければならないようだと思い、悲しくございます。親たちのお世話を、少しさえし申し上げないで（月へ）参りますとすればその道も安らかでもないだろうから、この何日かの間も、（部屋の外に）出て座って、（月の都の人にせめて）今年だけのいとまを申し上げたが、全く許されないので、このように思い嘆くのです。（ご両親の）お心ばかりを乱して去ってしまうようなことが悲しく堪えにくくございます。あの（月の）都の人は、たいへん清らかで美しく、年をとらないのです。悩むこともないのでございます。そのような所へ参ろうとするようなことも、（今の私には）この上ないことではございません。（親たちが）年老い衰えなさっている様子を見申し上げないようなことが慕わしいのだ」と言うと、翁は、「胸が痛むことを、おっしゃるな。端正な姿をした使いにも、（翁＝私は）さまたげられまい」と、（使者を）いまいましく思っている。

【補充問題】

問１　「口惜しうはべりけり」（２行目）とあるが、かぐや姫は何をこのように思っているのか。最も適当なものを選べ。

ア　親たちが死ぬまで面倒を見ずに、月へ一人で行ってしまうこと。

イ　帝の要望どおりに入内せず、月に連れて行かれてしまうこと。

ウ　翁の気持ちを踏みにじって、月に帰る決意をしてしまうこと。

エ　これまでの親たちからの愛情に背いて、月へと帰ってしまうこと。

問２　かぐや姫が「月の都の人」について言う内容に合致するものを一つ選べ。

ア　宿縁によって人々の運命が最初から決まっている。

イ　誰もが豊かな生活をしていて、困窮した者はいない。

ウ　住む人は美しく、年老いたりせず、悩むこともない。

エ　時間が止まったままで、年老いた者ばかりである。

【補充問題解答】

問１　エ

問２　ウ